# ジョイフル城北
# スマイル城北

令和７年度 学校だより
ジョイスマ
令和７年　６月９日
熊本市立城北小学校
校長

## いじめをなくすために　～多面的・多角的に見る～

熊本市立小中学校では、6月を「心のきずなを深める月間」として、全校を挙げて取り組んでいます。城北小学校では、大きく次の3点に取り組んでいます。

1 いじめのサインを見逃さない
2 いじめが起こりにくい集団作り
　・道徳の授業 ・人権学習 ・いじめ根絶へ向けた授業の実施 ・学年集会等の実施
3 いじめを許さない環境づくり
　・学年、学級通信等で、いじめ根絶に関する啓発や取り組みの紹介

そこで、全校朝会でいじめ根絶のための意識づけとして、以下のような話を子どもたちにしました。

6月は熊本市の学校では「いじめ根絶強化月間」といって、いじめをなくすための活動や学習に取り組んできました。昨年からは「心のきずなを深める月間」と名称を変えました。それは次の二つの目的が変わったからです。一つめは、学校・家庭・地域が互いの役割と責任を強く自覚して、日頃からのいじめの未然防止を熊本市全体で進めるということ。二つめは、学校総体として、子どもたちが自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、豊かな人間性や社会性を身につけ、子ども一人一人が命を大切にし、安心して生活できる学校をつくることです。道徳の授業だけでなく、いろいろな機会に担任の先生方から、いじめについての話だけでなく、互いの人権を尊重し合う話も聞くことがあると思います。城北小学校では、みんなの人権を尊重し、いじめは絶対に許しません。

ところで、質問です。ヒントを3つ出します。ヒント1です。インドやパキスタンなどに住んでいたある生き物を日本に連れてきて、自然に放しました。なんという生き物か分かりますか。ヒント2です。その生き物は、今から100年以上前の1910年（明治43年）に沖縄、45年前の1979年（昭和54年）に奄美大島で放されました。ヒント3です。その生き物は、肉食で、ハブという毒ヘビも捕まえて食べます。分かりましたか。そうです。その生き物は、マングースです。沖縄や奄美大島には、猛毒を持っているハブという毒ヘビがいます。沖縄や奄美大島ではハブに噛まれる被害が何人も出てました。噛まれた人の中には亡くなる方もいました。そこで、ハブを捕まえて食べるというマングースを沖縄や奄美大島に放したんです。もしかすると、みんなのお父さんやお母さんの中で、沖縄や奄美大島の観光地でマングースとハブの戦いを見た方がいらっしゃるかもしれませんね。沖縄や奄美大島では、マングースのおかげでハブが減り、噛まれる被害が減ったと思いますか。被害は減りませんでした。ではこのマングースが活動するのは、いつだと思いますか。それは昼間なんです。ハブはいつ活動すると思いますか。ハブは夜に活動します。つまり、マングースとハブは出会うことがないんです。ハブと出会わないマングースは数がどんどん増えて、特別天然記念物のアマミノクロウサギやヤンバルクイナ、農家が育てているニワトリなどの小動物を襲い、沖縄や奄美大島の人たちは困りました。

なぜ、こんなことが起こったのでしょうか。それは、マングースのことを私たちがよく知らなかったからです。マングースのある一部だけを見て、ハブを食べてくれると思い込み、決めつけてしまった結果だと思います。

城北小学校ではこのマングースと同じようなことはありませんか。友達を「〇〇な人」と決めつけて、仲間外しをしたり、いじめをしたりしていませんか。みんな顔や声が違うように、きっとその友達にもいろんな面があります。「〇〇を教えてくれた」とか、「〇〇を手伝ってくれた」「〇〇が上手」など、いろんなよさがあると思います。友達とたくさん触れ合って、友達のことをたくさん知ってください。城北小のみんなには、その違いやよさを互いに認め合い、支え合う人になってほしいです。お互いの違いやよさを認め合い、支え合う人たちが、学級で、学校でたくさん増えると、城北小の合言葉「ジョイフル城北、スマイル城北」になれると思います。そして、友達を大切にする、いじめのない城北小学校にしてほしいと思います。